

道博協ニュース 第 135 号 (2024 年 10 月 16 日 発行)

第 6 2 回北海道博物館大会を終えて

令和 6 (2024) 年 7 月 11 日～12 日、第 6 2 回北海道博物館大会が函館市で開催されました。前週には雨の予報でしたが、両日とも好天に恵まれ、開催市としては胸をなでおろしたところです。今回の大会は、前日に道教委と道博協共催による博物館職員研修が初めて開催されました。博物館法の改正によるものですが、今後も開催される予定ですので、運営等が今後の参考になれば幸いです。

さて、大会 1 日目は、午前中の総会に引き続き、午後から、全道各地から約 100 名の参加のなか、表彰式、特別報告の後、「博物館資料の望ましい管理」をテーマに研究大会が開催されました。北海道大学の加藤克准教授をコーディネーターに、法政大学の金山喜昭教授に「博物館のコレクション管理の在り方を考える」のテーマで基調講演をいただき、その後、個別報告を行いました。

金山教授からは、各館の資料管理の現状や今や全国的な問題となっている収蔵庫問題、コレクション管理の必要性等について、貴重なお話をいただきました。続く個別報告では、①市立函館博物館、②いしかり砂丘の風資料館、③有島記念館の 3 館から、それぞれの館における資料管理の状況について報告がありました。市立函館博物館は私から、事務職館長の視点での資料管理の取り組みについて報告しました。いしかり砂丘の風資料館の志賀学芸員からは、イルカが打ちあがったときの対応を例に、小規模館としての対応の難し

さについて、有島記念館の伊藤学芸員からは、学芸員不在時に館に赴任してからの、様々な取り組みや問題点について報告がありました。その後の総合討論は、参加者からのアンケート、発言をもとに行われましたが、加藤先生の館長の役割についてのお話しは、私としても耳の痛い内容であり、今後の館運営の参考になった参加者も多かったのではないのでしょうか。テーマが各館が抱えている問題であることを考えると、もう少し時間が取ればよかったのではないかと考えています。

2 日目のエクスカージョンは、函館市北方民族資料館、市立函館博物館のコースと函館市縄文文化センター、垣ノ島遺跡を見学する 2 コースで実施し、無事、全日程を終了しました。

今大会で特に印象的だったのは懇親会で、全道各地の皆さんが親睦を深めている様子を見て、学芸員の絆の強さをあらためて感じたところです。

最後に、大会終了後に、大会の運営に対し、身に余るお褒めの言葉をいただきましたが、これは、道南ブロックのみなさんご協力があったからこそであり、道南のチームワークの良さを参加者の皆さんにアピールできたのではと考えております。

来年は札幌市での開催です。今後とも、北海道博物館協会が、会員の皆さんの結束のもと、発展されますことを祈念しております。

[市立函館博物館 館長 熊谷 正]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和 6 年度研修会報告

道央地区博物館等連絡協議会では 5 月 30 日火曜日に「デジタルアーカイブの公開」をテーマに「既存システムを利用した情報公開プラン ABC—『スリムモデル実装階梯』に向けて」と題して東京国立博物館情報管理室長・館史資料室長の阿見雄之氏に講演いただきました。これは、博物館法改正で 3 条 1

項 3 号に「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること」が新設されたことから「博物館資料のデジタル化と活用」をテーマに、法律でいう電磁記録と、デジタルアーカイブの実際について知るとともに、日常的な資料管理実務の延長でできる公開方法を学ぶ機会として企画したものです。

阿見氏は、前任の東京工業大学博物館でデジタルアーカイブ業務を担当したほか、小規模館のデジタルアーカイブ支援に当たってきた経験があり、現在は東京国立博物館の情報管理室長として自館のデジ

タルアーカイブ公開業務に携わる一方、全国の博物館からの相談に応じています。

研修の主テーマであるデジタルアーカイブの公開については、資料目録の作成方法や記録媒体が異なること、インターネット上での情報公開やホームページ作成の担当者が多様であることなど、館園ごとの条件の違いが大きいに加え、外注した場合の費用負担が大きく具体的な計画を立てるに至っていない館園が少なくないことが指摘されました。そこで講師から、簡潔性、持続可能性を考えると、業務成果の整理と公開という視点を持ってシンプルで使いやすいデジタルデータ公開を目指すことなどの「スリムモデル」が紹介されました。その事例として既存システムである「ジャパンサーチ」の機能を利用し、各々の館園ホームページに検索機能を備えたデジタルアーカイブ公開ページを導入する方法が示され、随時データの追加登録が可能で日常業務の延長でデータの更新が可能な事例を示していただきました。同方法を実践するにしても、業者等と公

開業務を作りあげるにしても参考にすべき点が多い研修となりました。



研修会の様子

[北海道開拓の村 学芸員 細川 健裕]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

まずは行動、そして考える。

「神楽や踊りの記録はどうしている？ 撮影に何かセオリーってあるの？ それ知りたい。」と役員会で発せられた提案。じゃあ皆で勉強しようと思現した研修会を6月19日に乙部町で行った。

まずは、知っている人もそうでない人も、知識を授かるため、北海道文化財審議会委員の森雅人氏を講師にお招きし、民俗芸能を保存する意義や継承にかかわる社会的な問題など、古平町の琴平神社例大祭の継承のため、自らクラウドファンディングを立ち上げたり、町民と交流したりしながら、人材育成の場を創出するといった前衛的な取り組みを行っている立場からお話いただいた。

その後は、江差町、せたな町、福島町における実際の取り組みや、現状、課題などの事例報告を行った。それぞれが芸能の保存と継承、保護をすすめるにあたって実践してきたことや、理想を追求するためにどんな工夫と行動をしてきたかという話は、保存活動をすすめられていなかったり、そういった芸能がなかったりする町の担当者にとっても、参考となる実践例だった。

そして最後はグループミーティング。民俗芸能の登録や、後継者育成、保存継承のために学芸員として何ができるか、それぞれの考えを共有するため設けたプログラムなのだが、それは同時に、ふだん対



研修会の様子

話することが少ない会員それぞれを知る機会になるチャンスでもあるので、所属や年代、管轄エリアが異なる者が交流できるよう4つのグループに分けて、話し合ってもらった。結果、和気あいあいとまではいかないが、活発な声が響く。そして総評は当然、講師である森氏にお願いし、プラスアルファのアドバイスをいただいた。

「芸能は時代によって変化するもの。」当たり前だが見落としがちで本質に気づく時間になったと思うし、誰かが協力してくれないとか、予算がどうかと悩む前に、まずは自らが動いて始めること。それが保存継承するために、大切な一歩となることを再認識する研修になったはずだ。

[七飯町歴史館 学芸員 山田 央]

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

日胆地区博物館等連絡協議会 令和 6 年度総会報告

本年度の総会及び研修を、室蘭市のだんパラ公園 宿泊研修施設サンパワー 380 を主会場に 5 月 30 日 (木) ~ 31 日 (金) の日程で 13 館園 18 名が参加し開催しました。講演では、前瑞泉鍛刀所 刀匠 堀井胤匡氏をお招きして、日本刀の作刀や、刀の手入れについて、実演を交え解説頂きました。

実際に手入れについて刀を手にした参加者はその重量に驚きながら手順を学んでいました。



堀井先生の講演の様子

翌日の港湾に関する視察研修では、国土交通省の室蘭港湾事務所の方々によって、室蘭港の役割や築港の歴史など船上から解説いただきました。



船内解説の様子

また、戦時中軍需都市であった室蘭の港を守るために造られた施設跡 (戦跡) を視察しました。



戦跡 (観測所跡) での解説

夜の交流会も盛り上がり、様々な情報交換をしていました。皆様お疲れさまでした。

[室蘭市民俗資料館 学芸員 谷中 聖治]

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

石碑情報を後世に残す

増毛町内には町指定の史跡が 30 か所ありますが、その他に 70 以上の石碑の所在が確認されています。古いものでは文化年間の船主によるものと思われる、湧水への感謝を詠んだ「慈流泉賛歌碑」から、幕領期で行われた北方警備に従事した藩士や従者の墓碑、各地から集まった移住者の信仰に由来する古祠、新しいものでは国道開通記念碑や開拓記念碑などです。

石碑には、敢えて石に刻んでも後世に伝えてい

きたいと考える時代背景や地域の思いがあり、こうした内容を町の皆様に紹介するべく、近年「バスで出かける町内史跡巡りツアー」を開催しています。

石碑自体は建立年や顕彰対象、事績が彫られている程度ですが、その時代背景や世相といった「事情」をストーリーとして簡潔にお伝えすることで、当時の人々の想いを想像できればと考えていましたが、参加者からは好評をいただき毎年違う史跡を巡るようになりました。

ただ、こうした石碑も全町を横断的に調査した時代から 50 年以上が経過し、現在となつてはその存在が確認できないものがいくつかあることもわかってきています。民家の庭先にあったものが

所有者がいなくなったことで埋もれてしまい特定が難しくなったり、建物の解体時に散逸するなど、中には丸 2 日間広大な草むらを草刈りしてようやく発見したものもあります。昨年からは石碑の位置情報を GPS で記録する取り組みも始めており、将来担当者が変わっても石碑の情報が失われてしまわないよう配慮していきたいと考えています。



「令和 5 年度史跡巡りツアー」の様子

[増毛町教育委員会 小野 卓也]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

令和 6 年もガリンコ号Ⅲ IMERU で行く！ 蜃気楼・海鳥観察クルーズ & 紋別の芸術めぐりツアー開催報告

今回の研修会は、「社会教育施設が一端を担う地域振興活動」という主旨のもと実施致しました。

2021 年に就航した新造船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」を活用した自然観察クルーズや市内の科学館、博物館職員などによるガイド案内など、施設や現地見学を軸に、当センター主催で「蜃気楼・海鳥観察クルーズ」という着地型観光ツアーと致しました。なお今回はオホーツク管内博物館連絡協議会の研修会ということで、通常のクルーズツアーの他に施設見学と紋別市大山山頂園内の芸術作品の解説を追加しております。

クルーズには一般客も含め道内外から約 30 人の参加者があり、曇天模様ではあったものの、沖合で観察目標である上位蜃気楼を見ることが出来ました。また海鳥の出現は多くはありませんでしたが、紋別港内でオオセグロカモメやカワウ等約 800 羽が集まる海鳥コロニーを観察することができました。蜃気楼の発生時並びに海鳥が見られた際は、流水科学センター石原学芸員や野鳥ガイドの大館和広氏がその都度解説を行い、参加者は蜃気楼や海鳥の写真を撮ったり、解説に熱心に耳を傾ける様子が



案内する大館氏と観察する参加者

見られました。

クルーズ下船後は、一般希望者も交えて流水科学センター見学のほか、紋別市大山山頂園で屋外彫刻作品等についての見学を行いました。大山山頂では、紋別市立博物館学芸員の小林健一氏が紋別市に所縁のある芸術家、齊藤顯治氏や村瀬真治氏の絵画や彫刻作品について、作品の素材や形から作者の思いを考える楽しさなどを解説しました。

今後も、社会教育施設だからできる「地域の魅力発見」や「地域の魅力発信」などにより、観光資源の磨き上げを目指していきたいと思います。

[北海道立オホーツク流水科学センター 石原 宙]

道東 3 管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

道東の自然学芸員一押しの写真が大集合・巡回展『カメラはみた、動物たちの素顔』

道東各地の自然史担当学芸員が撮影した、野生動物の写真を紹介する巡回展を実施しました。美幌博物館で行われた企画展『カメラはみた、動物たちの素顔』の展示パネルを、美幌博物館、町田学芸員が巡回展用にアレンジしてくださり、斜里町知床博物館、根室市歴史と自然の資料館、釧路市立博物館を巡回しました。学芸員が調査研究や日頃の活動をとおして撮影した、野生動物たちの美しい姿、コミカルな姿を通して、その生態や人との関わりについて、多くの方々に知ってもらう機会になったかと思えます。個人的におすすめだったのは、センサーカメラによって撮影された動物たちの姿です。普段は目にする事ができない、動物たちの生き生きとした自然な姿が写し出されています。また、地域の特徴や学芸員の専門とする分類群によって、選ばれる写真が異なり、特色が出ているのも見どころの一つでした。今回、美幌博物館の町田学芸員の声掛けで実施した巡回展、道東で野生動物を専門とする学芸員同士が交流を図りながら、それぞれの調査、研究活動を知り、互いに学ぶ、とても良い機会となりました。



センサーカメラで撮影されたエゾシカ死体に集まるオオワシ



巡回展をみる子供たちの様子

[根室市歴史と自然の資料館

学芸員 (自然) 外山 雅大]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

動き出した 9 園館

北海道産いきもの保全プロジェクト

令和 4 年 (2022 年) 4 月 19 日に日本動物園水族館協会に加盟している北海道内の動物園水族館 8 園館 (札幌市円山動物園・旭川市旭山動物園・おびひろ動物園・釧路市動物園・おたる水族館・新さっぽろサンピアザ水族館・登別マリンパークニクス・サケのふるさと千歳水族館) は、持続可能な生物多様性の保全に向け、北海道に生息している野生生物の生息域内・域外保全活動や自然保護活動を積極的に実施していくため、「北海道産いきもの保全プロジェクト (以下「プロジェクト」という。)」を立ち

上げました。令和 6 年 (2024 年) 7 月 3 日には新たに AOA O SAPPORO が加わり、9 園館で活動していくこととなりました。

北海道は、日本の中でも特有の貴重な生態系が築かれており、プロジェクトでは飼育している道産動物のデータベース化、飼育下における計画的な繁殖、遺伝的多様性の確保と飼育繁殖技術の確立を図ります。また、昨年からの保全活動団体などを支援する旭山動物園のイベント「あにまる・ハッピー・マーケット」に参加し、活動を紹介する講演なども実施しています。令和 6 年 (2024 年) 8 月 1 日からは本プロジェクトや北海道に生息している動物の認知度向上のため公式インスタグラムを開設し、公開しました。また令和 6 年 (2024 年) 9 月 1 日から令和 7 年 (2025 年) 3 月 31 日までの期間、各園館への訪問促進、道産動物に関する普及啓発などを目的とし

て加盟園館におけるスタンプラリーを実施しています。全9園館のスタンプをすべて集めた方へ、オリジナルの限定缶バッジセットをプレゼントいたします。多くの参加者をお待ちしております。

本プロジェクトに参加する9園館は、より積極的に様々な活動に取り組み、生物多様性の豊かさ、「いきもの」の逞しさ、そして「北海道」の素晴らしさを伝えていきます。



「北海道産いきもの保全プロジェクト」公式Instagram

@HOKKAIDOUSAN.KIMONO



北海道新聞野生生物基金のネイチャーフォーラム2024「北海道の動物園水族館9園館プロジェクト」(8月31日、札幌市中央区道新プラザ D0-BOX)

[札幌市円山動物園 動物専門員 工藤 菜生]

学芸職員部会 NEWS

デジタル時代の資料管理： 博物館学芸員のための新たな展望 コレクション管理と3Dデータ

学芸職員部会では、昨年の令和5年度研修のテーマとして博物館のコレクション管理を取り上げました。特に、コレクション管理の要である資料台帳に焦点を当て、資料台帳作成が進まない理由や、作成を進めるための方策について、基調講演やワークショップを通じて意見を共有しました。

偶然にも、2023年10月に江別市郷土資料館の資料廃棄問題が報道され、コレクション管理をめぐる課題が顕在化しました。また、2024年7月には、奈良県知事が県立民俗博物館の所蔵資料について廃棄に言及したことが大きく報道されました。これらの出来事は、コレクション管理が博物館の現代的な課題であると同時に、社会問題として取り上げられる共通点を持っています。

一方で、博物館資料の活用は実物資料に限らないことも事実です。改正博物館法では、資料のデジタル・アーカイブ化とウェブ公開が博物館の事業として追加されました。筆者が関わる考古学の現場では、調査業務の中間生成物として日々3Dデータが生み出されています。発掘調査資料は最終的には博物館に移管されることが多いことを考えると、こうした

未活用のデータを活用する方法を模索することが重要です。

博物館における3Dデータは、資料価値をより広く周知させるとともに、資料へのアクセス可能性を拡大するものです。前出の奈良県知事は、廃棄の代替手段として3Dデータ化に言及しましたが、こうした手法は博物館法がいう「デジタル・アーカイブ」の理念とは異なるものであることを踏まえる必要があります。

学芸職員部会では、森健人氏（一般社団法人路上博物館）を講師に招き、「博物館のための三次元計測入門」を令和6年度の研修テーマとし、すでに事前研修として3回の研修・ワークショップを実施しています。3D計測とデータの活用方法を理解することは、博物館資料の価値を高めるために必要な技術であり、これからの学芸職員にとって必須のスキルです。技術習得を通じて職員の資質向上を図ることが、この研修の目標です。



学芸職員部会オンライン研修のようす

[学芸職員部会事務局長

厚沢部町教育委員会 石井 淳平]

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

来館者数を増やすための取り組みについて

科学館・博物館の評価を測るひとつの指標として「来館者数」が挙げられる。館長会議では毎回話題に上り、「来館者数を増やしたい」という思いは各館共通であるといえる。徐々にコロナ禍以前の水準に戻りつつあるという館が増えているが、コロナ禍以前より増えているという館は多くない。来館者数を増やすためには何が必要なのか。5月に実施した道科協館長会議では、各館の取り組みについて情報交換を行った。

来館者数を伸ばすための取り組みは、大きく「新規来館者の獲得」「リピーターの獲得」の二つに分けられる。前者については、教育委員会や教頭会にイベントを広報したり、地元の大学や企業と連携したイベントを行ったりすることで、地域の小中学生や新たな来館者層の来館が期待できるようになったという事例が報告された。また、遅い時間帯にイベントを行うことにより、普段とは違う層に来館してもらえたとの話もあった。

一方で、その館のファンとなって何度も来館してくれる“リピーター”を増やすことに力を入れて

いる館も多く、特に職員による解説や実演の質の向上を目指しているという話が多く聞かれた。

展示物などのハード面もたしかに館の魅力のひとつであるが、その日に出会った職員とのコミュニケーションを通じて生まれる感動が「また訪れたい」と思うきっかけになることもある。そのような機会を多く生むためにも、職員の資質向上が館の魅力向上に直結すると言っても過言ではないだろう。

また、年間パスポートの購入者へのアプローチを効果的に行っているという報告もあった。年間パスポートの購入者が多いということは、その館のファンが多いと言い換えることもできる。そのファンを大切にしようという取り組みとして、年間パスポート購入者向けの広報物を定期的に発行したり、年間パスポート購入者は優先的にイベントの予約ができるような仕組みを設けたりして、定期的な来館を促しているという報告があった。

来館者数が増えればよいと一概に言えるものではないが、多くの方に愛され、何度も訪れたいと思っただけのような魅力的な館を目指すという目的は各館共通である。今後も科学館・博物館相互のネットワークを活用して、職員の資質向上等のための情報交換や研修を続けていきたい。

[札幌市青少年科学館 管理課調整担当係長
高橋 志織]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

地域美術史のアーカイブ —北海道立近代美術館の掛川源一郎 の写真と資料について

約3年続いたコロナ禍では、多くの美術館や博物館で展覧会やイベントが中止となり、必然的にどの館の学芸員も自館の所蔵品や資料と向き合う時間が増えました。これを機に所蔵資料の魅力や価値を再認識し、今後の活用について考えたという館もあるかのではないのでしょうか。また、資料の活用という点では、自館の資料を所蔵館の学芸員だけではなく、地域の財産としてより多くの人が利用できるアーカイブズを構築しようとする考えも徐々に広がってきたといえるでしょう。

こうした関心の高まりを背景に、本年3月7日と8日に開催された第32回北海道美術館学芸員研究

協議会では、1日目のテーマとして「地域美術史のアーカイブ」が取り上げられ、国立国際美術館の特定研究員として同館のアーカイブの構築を進めた児玉茜氏の特別講話をはじめ、各館の学芸員からも事例報告が行われました。

その際、当館の久米淳之上席専門員が報告したのが、令和5年度に受贈した掛川源一郎の写真と資料の整理とアーカイブ化についてです。

掛川源一郎(1913-2007)はリアリズム写真の実践者として、アイヌ民族の文化・風俗、北電伊達火力発電所建設の反対運動、有珠山の記録等、幅広い主題を追い続けた戦後の北海道を代表する室蘭出身の写真家です。当館に寄贈された作品と資料は、遺族と掛川作品を管理する掛川源一郎写真委員会からの申し出によるもので、2004年の個展及び写真集出版のためにプリントした初期から最盛期・80年代までの活動を網羅する写真156点のほか、資料としてモノクロネガファイル、フィルムファイル、ヴィンテージアルバム、モノクロプリント、カメラ、取材記事のスクラップ等、ダンボール100

箱以上分が含まれていました。まさに、掛川源一郎の仕事の全容を知ることができる唯一のまとまりとして大変貴重なものといえるでしょう。

すでに、写真156点については令和5年度末に所蔵品として登録済ですが、今後はこれらの資料をすみやかに分類整理し、保存環境を整えつつ、データ化を進めることが課題となっています。膨大な

数故に、データ化までの作業は容易ではありませんが、研究者はもとより、広く一般にもご覧いただけるよう、ここ数年で集中的に作業を進め、公開に結びつけたいと考えているところです。皆様には、ぜひご期待いただきたいと思っています。

[北海道立近代美術館 学芸部長 村山 史歩]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2024年10月～2025年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

北広島市エコミュージアムセンター (011-373-0188)

期間	タイトル
10/19	きたひろ 140 周年記念事業「地域遺産発見！発見の小径を歩く（東部地区編）」
10/26～2025/2/24	きたひろ 140 周年記念事業企画展「和田郁次郎～きたひろ始まりのものがたり～」

札幌オリンピックミュージアム (011-631-2000)

期間	タイトル
10/12～2025/1/13	フランスとオリンピックー130年のあゆみー
10/5	大倉山・宮の森ジャンプ競技場往復ノルディックウォーキング
10/13・14	ビックラ！！スポフェス in 大倉山 2024

いしかり砂丘の風資料館 (0113-62-3711)

期間	タイトル
7/19～11/10	開館 20 周年記念特別展「石狩十大事件 何が現在の石狩をつくった？」
10/20	体験講座「勾玉・管玉をつくる」
10/27	野外講座「石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物」
11/9	トークイベント「ウミベオロジー／石狩海辺学 2024」（紀伊國屋書店札幌本店）
12/13～12/28	パネル展「資料館の 20 年 復刻!? 展示投票」（石狩市民図書館）
2025 年 1 月下旬	連続講座「石狩大学博物館学」
2025/1 月～3 月	テーマ展「資料館のお宝 2025」

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
10/5	ミュージアムカレッジ「オンラインで楽しむアイヌ語＜初級編＞」
10/6	特別イベント「“海岸漂着物”への取り組みー2023 年度調査報告ー」
10/12	子どもワークショップ「親子で探検！森のコレクションをつくろう」
10/13、10/14	特別イベント「北方世界の交易と貿易陶磁器」
10/19	ミュージアムカレッジ「国境の島：エトロフ島とクナシリ島ー櫛丸・改俗・勤番ー」

10/19	ミュージアムカレッジ「オンラインで楽しむアイヌ語<中級編>」
10/26～2025/1/13	第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」
10/26	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ(全12回)第10回」
11/2	講演会「樺太アイヌによる言葉のとりもどし」
11/3	企画テーマ展関連行事「変わりゆく葬送儀礼と死生観」
11/4	特別イベント「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」
11/16	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ(全12回)第11回」
11/17	企画テーマ展関連行事「お葬式に関する「モノ」から読み取るアイヌ民族の近代」
11/24	ちゃれんがワークショップ「恐竜時代の岩石を使って、地質図をつくってみよう！」
12/7	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ(全12回)第12回」
12/8	企画テーマ展関連行事「お葬式に関する「コト」からみる移住者にとっての「葬式」
12/14	ちゃれんがワークショップ「植物化石から地質時代の環境を調べる」
12/21	ミュージアムカレッジ「イオマンテかイヨマンテか-アイヌ語の「わたり音」を再考する」
12/22	ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり」
2025/1/18	特別イベント「博物館のウラ側をしてみよう～生物編～」(同日2回開催)
1/19	ちゃれんがワークショップ「稲わらで「鍋敷き」を作ってみよう！」
1/25、2/1、2/8、2/15、 2/22、3/1、3/8、3/15	連続講座「はじめての古文書講座(全8回)」
2/8～4/6	第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」
2/9、2/15、3/16、3/29	連続講座「はじめての「トンコリ」体験」
2/9	子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう①」(同日2回開催)
2/16	子どもワークショップ「シカ笛をつくろう！」
3/1	自然観察会「動物の足あと調査」
3/9	特別イベント「クマゲラー斉調査2025」
3/23	子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう②」(同日2回開催)

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/2～2025/3/31	常設展「北海道の文学」
9/7～11/10	特別展「氷室冴子の世界 ふくれつつらのヒロインたち」
9/28～12/28	常設展アーカイブ「森田たまと素木しづ」
10/6、2025/2/2、3/2	わくわくこどもランド「絵本の読み聞かせ」ほか
10/13～10/14	中島公園ぶながく縁日「古書市、講演会など」
10/27	文字・活字文化の日関連事業「講演会など」
11月上旬	ロビーコンサート
11/3	古典の日記念朗読会
11/10	わくわくこどもランド「親子で楽しむ人形劇」
11/14、12/12、2025/1/9、2/13、 3/13	月例朗読会「北の響～名作を声にのせて」
11/17	映像作品鑑賞「伊豆の踊子」
11/23～2025/1/19	ファミリー文学館「雪が降る一本の中にも、文字の上にも……」

12/8	わくわくこどもランド「手作り教室：ツリーをつくろう！」
12/15	わくわくこどもランド「手作り教室：すごろくをつくろう！」
12/22	わくわくこどもランド「クリスマススペシャル：絵本の読み聞かせほか」
2025/1/11～3/23	常設展アーカイブ「札幌の映画と演劇 80年代を中心に」
2025/1/12	わくわくこどもランド「手作り教室：ウインターブックをつくろう！」
2025/2/1～3/23	特別展「木原直彦と北海道の文学」

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
8/6～11/30	近代文学者の書展2
9/28	ギャラリートーク：講師 北海道立文学館副館長兼学芸課長 苫名直子
10/12	ギャラリートーク：講師 北海道立文学館主任学芸員
12月	ギャラリートーク：講師未定
12/5～2025/3/31	万葉集と源氏物語展 ～松本春子・暎子、長佐古良子の世界～
2025年1月	ギャラリートーク：講師未定
2月	ギャラリートーク：講師未定

空知

岩見沢郷土科学館 (0126-23-7170)

期間	タイトル
10/12	天体教室②「上弦の月と土星、秋の星座観察」
10/19	天体教室③「紫金山、アトラス彗星の観察」
11/3	文化の日科学館無料開放
11/9	科学教室②「燃焼と爆発」
11/16	科学教室③「実験で学ぶ天気の変化」
3月予定	「令和6年度新収蔵品展」
3月上旬予定	第20回科学館まつり
3月中旬予定	天体教室④「オリオンウィーク」

後志

一般財団法人荒井記念美術館 (0135-63-1111)

期間	タイトル
8/7～11/17	西村計雄展Ⅱ期「西村計雄のパレット」
9/26～11/17	ピカソ版画展Ⅲ期「版画の歴史とピカソ」
10/6	ピカソバースデー・フリーコンサート

余市水産博物館 (0135-22-6187)

期間	タイトル
10/5	フゴッペ洞窟開館20周年記念事業「石器作りに挑戦！！」

渡島

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
10/6	期間限定イベント「中空土偶（レプリカ）をだっこしてみよう」
10/19	縄文時代のモノづくり体験①（野焼き体験）
10/26～12/15	企画展「函館空港発掘 50年史」
11/2	講演会「私の函館空港発掘物語—あれから50年、第4地点・中野A・B遺跡の記憶—
11/9	縄文時代のモノづくり体験② 黒曜石の石鏃づくり
12/3～2025/2/27	期間限定イベント「縄文文化特別研究成果発表展示」
2025/1/11・12	期間限定イベント「縄文体験・土偶づくり」
2/8	チョコレートで石器づくり
3/20～3/30	期間限定イベント「縄文世界遺産クイズラリー」

市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
10/1～10/13	令和6年度企画展「北東アジアのシルクロード-北方交易と蝦夷錦-」
10/5	千島アイヌのコイリング技法でコースターをつくろう
10/6	五稜郭探求～五稜郭と箱館戦争を検証する～
10/13	アイヌの花ござ編みの技法でコースターをつくろう
10/23～2025/3/31	収蔵資料展「はこだての歩み」
10/23～2025/3/31	収蔵資料展「箱館戦争」
10/23～2025/3/31	収蔵資料展「函博 波響コレクション」
10/23～2025/3/31	ロビー展「洞爺丸の悲劇から七十年」
12/8	デジタルでみる！博物館資料鑑賞会
12/15	学芸員こぼれ話①「縄文時代の生活・文化あれこれ」
12/22	"冬休み自由研究「函館のすごろくゲームを作ろう」
2025/1/11	学芸員こぼれ話②「絵を読む～蠣崎波響筆『牡丹睡猫図』～」
1/18	"冬休み自由研究
3/9	学芸員こぼれ話③「函館に来た樺太アイヌと千島アイヌ」
3/22	学芸員こぼれ話④「忘れない！函館大火」

胆振

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
4/27～11/24	中庭展示 Vol.20 西田卓司「lost treasure」
9/14～11/24	企画展「こどもとおとなの美術展 2024-いのちと自然の造形譚 (ものがたり)」
12/10～2025/3/16	収蔵品展「遠藤ミマン、モチーフを語る」
12/21～2025/3/16	企画展「足元から見つける、まちの自然」

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
8/3～10/6	令和6年度企画展「戦後の日本銀行券とちょきん箱」
10/13	とんてん館寺子屋教室「焼きいもと木製コースターづくり」体験学習会
11/23 (予定)	とんてん館寺子屋教室「干支凧づくり」体験学習会
12/8 (予定)	とんてん館寺子屋教室「しめ縄づくり」体験学習会
12/15 (予定)	とんてん館寺子屋教室「石臼餅つき」体験学習会

国立アイヌ民族博物館 (0144-82-3914)

期間	タイトル
定期的 (主に週末)	基本展示室ギャラリートーク
9/14～11/17	第9回特別展示「驚異と怪異-想像界の生きものたち」
10/14	第9回特別展示「驚異と怪異-想像界の生きものたち」民博×アイヌ博クロストーク
11/3	第9回特別展示「驚異と怪異-想像界の生きものたち」ギャラリートーク第2回・第3回
11/17	第9回特別展示「驚異と怪異-想像界の生きものたち」ギャラリートーク第4回
11/23・24	アイヌ文様の入ったバッグを作ろう!
12/14	第7回テーマ展示「収蔵資料展」学芸員なりきり体験 展示室でお話をきいてみよう 第1回
12/14～2025/2/16	第7回テーマ展示「収蔵資料展」
12/21	第7回テーマ展示「収蔵資料展」学芸員なりきり体験 展示室でお話をきいてみよう 第2回
2025/1/11	第7回テーマ展示「収蔵資料展」学芸員なりきり体験 資料調書をかいてみよう
1/18	第7回テーマ展示「収蔵資料展」学芸員なりきり体験 博物館の裏側をみてみよう 第1回
2/1	第7回テーマ展示「収蔵資料展」学芸員なりきり体験 展示室でお話をきいてみよう 第3回
2/8・9	動物の毛皮に触ってみよう-アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る-
2/15	第7回テーマ展示「収蔵資料展」学芸員なりきり体験 博物館の裏側をみてみよう 第2回
2025/3/15～5/18	第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」

日高

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

期間	タイトル
10/1～12/1	令和 6 年度特別展「野生動物とわたしたちー狩猟と駆除と共存ー」
10/13	令和 6 年度歴史館講座「変わりゆく野生動物と人間の関係：Zoning System」

上川

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
10 月	企画展「昔の遊び展」
10/5	主催講座「歴史探訪」
10/5～11/24	特別企画展「道北の鉄道」 ※道北地区巡回展を兼ねる
10/13	主催講座「古文書教室」(第 3 回)
10/27	主催講座「創作体験」
11/17	主催講座「古文書教室」(第 4 回)
12/7	主催講座「昔の手仕事」
12/14	主催講座「科学体験」
2025/1/11～3/23	企画展「雪と氷の世界」
1/13	主催講座「サイエンスフェスティバル」
1/19	主催講座「冬の自然観察会」(第 1 回)
2/1～3/8	季節の行事展「桃の節句」
2/15	主催講座「冬の自然観察会」(第 2 回)

北海道立旭川美術館 (0166-22-2577)

期間	タイトル
9/14～11/17	藤戸竹喜の世界展/旭美の写実
12/3～12/25	みんなの推し☆コレクション
12/3～2025/3/16	追悼 彫刻家・根津邦夫
1/11～3/16	オブ・アート展

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
9/28～12/15	収蔵品展 (ステーションギャラリー・仮)
10/26	おとな彫刻教室
11/9	こども彫刻教室
12/19～2025/3/2	織田コレクション② (ステーションギャラリー・仮)

宗谷

情報なし

オホーツク

北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
10/5	はくぶつかんクラブ「ビーズ織りで作るミラーキーホルダー」
10/6	講習会「ウイльта刺繍」
10/13	上映会「北方民族博物館シアター秋」
11/1～12/15	写真展「アラスカの小さな村の現在：日常・ごみ・環境変化」
11/1～12/15	ロビー展「北に魅せられた人1」
11/17	講座「アラスカの小さな村の現在」
11/30	はくぶつかんクラブ「トナカイ刺繍とフェルトボールリース」
12/7	はくぶつかんクラブ「皮とフェルトで作るカレンダー」
12/8	講座「北の植物」
2025/1/4～1/19	ロビー展「オホーツクシリーズ⑱ 北の状景から」
1/11	講習会「はじめての歩くスキーツアー」
1/12	講座「北グリーンランドの犬ぞり文化」
2/1	はくぶつかんクラブ「まが玉づくり」
2/1～4/6	企画展「カザフの工芸」
3月上旬	講座「カザフの装飾文化」
3月上旬	講習会「カザフの工芸」
3/15	はくぶつかんクラブ「手作りバターと簡単チーズ」
3/22	上映会「北方民族博物館シアター春」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

期間	タイトル
開催中～10/31	ミニ展示「紋別と将棋の関わり」
10/5～10/27	特別展「アートとの対話」
10/5	アートとの対話関連事業
10/13	子ども考古学体験「石器作り体験」
11/17	博物館講座「おもしろい地学基礎」
11/30～12/22	特別展「北海道写真協会紋別支部写真展」
12/8	博物館講座「ガラス玉を作ろう！」
2025/1/19	子ども考古学体験「火おこし体験」
1/25～2/16	企画展「博物館収蔵資料展」
3/1～3/23	特別展「第20回博物館サークル活動合同作品展」
3/9	博物館講座「懐かしの街頭紙芝居とあめ細工」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
10/5	自然観察会「古梅の森でコケ観察」
～10/9	ロビー展「すごい標本！すごい資料！」
10/11・12	プチ工房「ちりめん細工」
10/19	講演会「戦えアマゾネス！ハチヤアリの世界を見てみよう」
～10/20	特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」
11/2～11/24	企画展「交通安全ポスター作文展」
11/2	講演会「動物写真家の仕事」
11/15・16	プチ工房「ジェルキャンドル」
12/7～2025/1/12	企画展「おひろめコレクション展」
12/13・14	プチ工房「しめ縄」
2025/1/10・11	プチ工房「バズボム」
1/18	体験会「アイヌ刺繍を体験しよう」
2/1～3/2	企画展「冬季作品展」
2/7～8	プチ工房「サンキャッチャー」
2/9～3/2	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
3/7～8	プチ工房「化石発掘」
3/29～2025/10/26	特別展「蛍が舞う風景」
3/29	講演会「私たちのふるさと情報」

博物館網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
10/6	農園体験ワークショップ
12/15	しめ縄作り体験講座
12/26	鏡餅を作ろう
2025/1/7	七草粥を食べて絵馬作り
2/3	節分イベント
3/3	雛祭り

北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
10/5	ビーチコーミング
10/8～10/27	写真展「オホーツク物語 2024」西紋別写真部作品展
10/13、11/10、12/8、1/13、2/9、3/9	今月のプラネタリウム
11/9	講演会「大雪山の高山生態系の仕組みと気候変動の影響」
11/9～12/22	写真展「天と地の狭間で」第2部
12月	へタでもいいお絵かき会
2025年1月	コムケ写真展
1/10	プランクトン観察クルーズ
1/10～1/13	冬のギザまつり
3月	写真展オホーツク物語 6
3/9	蜃気楼観察クルーズ
3/22	春休みイベント

ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
4/29～11月上旬	遺跡の森スタンプラリー
2025/3/1～6/1	特集展示「いよいよオープン！トコロチャシ跡遺跡群」
3月（予定）	ところ遺跡の森公開講座

北網圏北見文化センター (0157-23-6700)

期間	タイトル
10/12・10/13	理論物理学者 佐治晴夫 講演会
10/12	音楽療法士 佐治順子 講演会
10/20	秋の落葉でかんたん押し葉づくり
11/2・11/3	青少年のための「科学の祭典」
11/6～2025/5/6	常設美術展示「青の世界」
11/16	プラネタリウム特別投影「千の風になって」
11/22～11/24	熟睡プラ寝たリウム 2024
11/30～12/1	「えんとつ町のペペル」朗読劇
12/14～2025/1/26	北方民族の衣装 ～サハリンからアムール川流域～
12/21・12/22	プラネタリウム特別投影「クリスマスファンタジー2024」
2025/1/11	チャレンジたこ作り
1/12	冬休みも文化センターで遊ぼう/冬休みわくわくプラネタリウム
1/25・1/26	中垣哲也オーロラトークライブ 2025
3/16～3/23	令和6年度 美術館講座合同作品展

十勝

浦幌町立博物館 (015-576-2009)

期間	タイトル
10/5～11/4	まちなか展示「国産初のビール用オオムギ北大1号」
10/5～11/4	企画展「うらほろサロンコーラス展」
11/14～11/26	帯広百年記念館移動展
12/7～2025/1/13	冬の企画展「点播豆播器展」
1/16～1/28	企画展「孔版画年賀状展」
2/1～2/16	企画展「ぼくのわたしの書き初め展」
3/1～4/13	春の企画展「コロナ関係資料展」

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

期間	タイトル
9/28～11/24	特別企画展「アイヌ工芸品展 アットゥシと太布 糸がつなぐ文化」
10/5～10/20	アイヌ文化ロビー展
10/12	博物館講座「ぶらり帯広」
11/30	博物館講座「近代文学者の見た十勝アイヌ」
12/14	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
12/15	体験教室「縄文のカタチを彫る！～消しゴムはんこ～」

2025/1/11～2/2	動画で旅する十勝の歴史5
1/11	博物館講座「古代北方世界と十勝」
1/17～2/2	第43回郷土美術展
2/8～3/2	ひな人形展
2/8～3/2	デッサン教室作品展
2/15	博物館講座「北海道の行商あれこれ」
3/15	博物館講座「学芸員のしごと学芸活動報告会」

上士幌町ひがし大雪博物資料館（ひがし大雪自然館）（01564-4-2323）

期間	タイトル
～10月	ロビー展「夏鳥展」
10月～2025年3月	冬鳥展
10/5	十勝三股の自然に触れる集い
10/14	十勝石（黒曜石）の観察会（十勝石の日）
10/27	タウシュベツ川の地層と岩石・黒曜石の観察会
11/3	自然館まつり
2/16	十勝三股で冬の動物の足跡・フィールドサインを観察しよう
2/23	糠平のオジロワシとオオワシ観察会（オジロワシ・オオワシ越冬個体数等調査）
11/17、12/15、 2025/1/19、2/16、 3/16	バックヤードツアー

神田日勝記念美術館（0156-66-1555）

期間	タイトル
9/21～12/8	企画展「神田日勝×半谷学 いのちのつながり」
10/8～10/15	第30回馬の絵作品展
12/11～2025年4月 上旬（予定）	2024年度コレクション展Ⅱ「牛馬は何を語るのか？」
12/8	第21回日勝祭（神田日勝生誕祭）
12/8	令和6年度アート・キッズ・クラブ（第4回）【小学生対象】
2025/1/上旬（未定）	令和6年度アート・キッズ・クラブ（第5回）【小学生対象】
2/15	令和6年度アート・キッズ・クラブ（第6回）【小学生対象】

釧路

釧路市こども遊学館（0154-32-0122）

期間	タイトル
10/12～10/14	企画展「遊びんピック 2024『モハモハ星人をたすけて！～みんなで宇宙船にかえそう～』」
11/3	青少年のための科学の祭典 釧路大会「サイエンス屋台村」
12/14～12/15	ワークショップ「クリスマス・スペシャル」
2025/1/12	企画展「ジオ・フェスティバル」

2/15～2/16	企画展「とり+かえっこ」
3/1～3/2	ワークショップ「ひなまつりスペシャル」
3/25～	企画展「春休みイベント」

釧路市立博物館 (0154-41-5809)

期間	タイトル
～10/6	企画展 釧路のサケ
～10/6	カメラは見た！動物たちの素顔
10/12～11/24	企画展「クスルン ムックル オルシペー釧路のムックリ三代の物語」
10/19,10/20,10/27	ムックリ教室・演奏会
10/20、11/17	春採湖畔探鳥会
11/30～2025/3/9	企画展「釧路の郵便 150 年」
12/28	おそなえもちをつくろう
2025/2/15	冬のいきもの観察会
2/22～3/16	巡回展「タンチョウイラスト展」
3/22～6月(予定)	企画展「道東考古—縄文の世界—」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
10/12～12/8	自然へのまなざし 天と地と
10/12～12/8	series Re-birth 風化から再生 2024 [朽ち行くものから] —下沢敏也展
10/12	プレミアム・トーク 下沢敏也×佐藤友哉
10/13	下沢敏也の茶器で楽しむ特別な茶会
10/26	「自然へのまなざし 天と地と」ギャラリー・ツアー
11/2	プレミアム・トーク「岩橋英遠—眼ざしの軌跡」
11/6	大人の家庭科&お気軽アート教室
11/9	美術講座「自然と芸術」
11/20	大人の家庭科&お気軽アート教室
11/30	アートシネマ館「9人の翻訳家 囚われたベストセラー」
11/30	「下沢敏也展」ギャラリー・ツアー
12/21～2025/3/9	ももちゃん芸術祭 2024 アートを楽しむヒントをみつけよう！
12/21～2025/3/9	新収蔵品展 森山大道「北海道」を中心に
12/26～2025/1/13	冬のキッズ・アトリエ
12/28	アートシネマ館「アイス・ロード」
2025/1/18	アートシネマ館「こども食堂にて」
2/8	プレミアム・トーク (タイトル未定)
2/15	美術講座 (タイトル未定)
2/22	アートシネマ館「こども食堂にて」
3/1	プレミアム・トーク (タイトル未定)

根室

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

期間	タイトル
9/14～10/16	海の作品展
10 月予定	アッケシソウ啓発事業
10/2～12/28	海事記念館探検クイズ (秋)
10/19～11/10	「宇宙の日」絵画コンテスト作品展
10/23	ほしぞら教室
10/26	文化財歴史講演会
11/23	熟睡プラ寝たリウム
12/24～2025/1/15	冬休み投影 (プラネタリウム)
2025/1/7～3/30	海事記念館探検クイズ (冬)
2025/2 月予定	学校授業支援企画展「なつかしの道具たち」
2025/3 月予定	特別展「太田村の屯田兵」
2025/3 月予定	海事記念館学芸員講座

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金 (会費) で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします (振込手数料はご負担くださいますようお願い致します)。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 (普) 0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2025 年度の北海道博物館大会について

第 63 回北海道博物館大会は、2025 年 7 月上旬に札幌市で開催予定です。

会員の皆様にお目にかかれましてを楽しみにしています。

(事務局一同)

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <https://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 135 号

発行日 2024 年 10 月 16 日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com